

**令和4年度
学校評価
(自己点検・自己評価)**

報告書

**学校法人 健生学園
東日本医療専門学校**

1. 教育目標

次に掲げる事を本学の教育目標とし、次代を担う柔道整復師・鍼灸師の育成に精励する所存である。

- ・伝統医療を継承しつつ現代の時代のニーズにあった人材育成を目指す。
- ・幅広いフィールドで即戦力となる人材の育成を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 生徒募集活動の充実

- ・柔整スポーツ科学科
- ・鍼灸スポーツ科学科
- ・実践研究科 (科目等履修生含む)
- ・保育園園児 (今年度卒園児4名)

2) 国家試験対策の強化

- ・国家試験対策授業の実施、模擬試験の実施
- ・模擬認定実技審査の実施
- ・個別指導の強化

3) 施設・設備

- ・修繕工事
 - キュービクル内コンデンサ交換工事、動力盤交換工事
 - KTI・IPI工事
 - 学生用トイレ修繕工事
- ・保育園駐車場(土地)購入

3. 評価項目の達成および取組状況

1. 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	
学校における職業教育の特色は何か	4	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・未来構想などが学生や保護者に周知されているか	3	
各学科の教育目標・育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	

【課題】

- ・ホームページやパンフレットの内容を見直して新たなデザインとしたが、育成人材像や独自の特色等の浸透には継続した広報活動が必要と考えられる。
- ・昨今の社会問題(少子高齢化、医療費高騰など)や企業のニーズに鑑みて、定期的に教育内容の見直しを検討していく必要がある。
- ・実践研究科については、認知度を向上させるため、様々な手段を用いて広報活動を続けていく必要がある。

【今後の改善方策】

- ・学校関係者評価報告書や関連企業からの提言を参考にし、SNS等の活用方法や動画配信サービスなど、インターネットを活用した広報手段の充実を図る。
- ・教育目標や育成人材像については、企業等と連携を取り、社会や企業が求めるニーズとの適合性を適宜検討していく。

【特記事項】

- ・SNSの更新やホームページ内へのコラム投稿を定期的に行い、教育方針や学校の特色などが閲覧者に伝わるように力を入れた
- ・オープンキャンパスにおいて、昨年度の反省点を踏まえ、より本校の特色が伝わるように内容の見直しを行った。
- ・令和5年度に向けて新たに介護関連資格の取得講習会の開催準備を行った
- ・スポーツトレーナー関連資格の取得支援のため各種対策講座を実施した。
 - 1)日本トレーニング指導者(JATI)認定試験対策講座
 - 2)日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナー講習会
 - 3)キネシオテーピング講座
 - 4)日本赤十字社 救急法基礎講習

2. 学校運営

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
目的に沿った運営方針が策定されているか		3
運営方針に沿った事業計画が策定されているか		4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか		4
人事や給与に関する規定は整備されているか		3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか		4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか		4
教育活動に等に関する情報公開が適切になされているか		4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか		4

【課題】

- ・全教職員による学校運営への参画意識の向上。
- ・責任の明確化や適正な業務分担。
- ・企業主導型保育園に特化した運営支援サービス利用を検討。

【今後の改善方策】

- ・事業計画の策定について十分な準備と時間が必要である。
- ・業務内容を共有し、休職・退職に対し迅速に対応する。
- ・地域と連携して、子供を預けたい保護者に認知してもらえるよう積極的に活動する。

【特記事項】

- ・実践研究科では、社会人の方が受講しやすくするため土日開催に加え、バックプランを設けた。
- ・在学生を対象とした特別授業を昨年度より多く開催した。
- ・企業主導型保育園(ダヴィンチ英智保育園)保育士の処遇改善臨時加算の申請を行い、今年度より助成を受けている。
- ・企業主導型保育園(ダヴィンチ英智保育園)定員数 19名、内卒園予定園児 4名、転園予定園児 1名、待機園児 1名。

3. 教育活動

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	4	
教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年数に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	
キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップや実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	
成績評価や単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどのマネジメントが行われているか	4	
関連分野における先端的な知識や技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	

【課題】

- ・大学、医療機関、接骨院等で活躍している先生を講師に招き授業を行っているが、さらなる職業教育の充実を検討しなければならない。
- ・各種セミナー等に参加して先端的知識や技能の習得に努めてはいるが、体系的な取組ができるようにしなければならない。
- ・2018年度から施行しているカリキュラムについて、業界のニーズや育成人材像に沿った教育ができていないか、教育目標に対する到達度等を検証する必要がある。

【今後の改善方策】

- ・さらなる職業教育の充実のために、インターンシップの拡充や関連分野の企業等と連携した特別講義の実施などの導入を検討していきたい。
- ・教員の指導力の向上や先端的技能の修得のための研修等の充実を図る。

【 特記事項 】

- ・鍼灸スポーツ科学科では卒業認定実技試験を実施し、一定水準の実技能力を修得しているかを評価している。
- ・柔道整復スポーツ科学科では認定実技審査を実施し、外部審査員による外部評価を取り入れている。
- ・柔道整復スポーツ科学科ではカリキュラムを精査し、令和 5 年度入学生から新カリキュラムを用いて活動していく。
- ・感染症対策を講じながら、各種競技会等においてトレーナー活動を行った。
- ・各企業や業界団体と連携をとり、以下のセミナーを開催した。
 - 1)大塚製薬株式会社 様 — 熱中症に関するセミナー
 - 2)県内、県外提携企業 様 — 就職支援特別講話(12回)
 - 3)株式会社 The Stadium 様 — スポーツトレーナー特別講義 など

4. 学修成果

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
就職率の向上が図られているか	3	
資格取得率の向上が図られているか	4	
退学率の低減が図られているか	3	
卒業生や在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	

【 課題 】

- ・学年別に学習指導計画を作成し、放課後の補習等を行い学力向上に取り組んでいるが、それでも勉強習慣の改善を果たせず、成績不良による中途退学が若干名存在している。
- ・卒業後の活躍や活動状況を詳細に把握するために、さらなる交流の充実が必要である。
- ・国家資格の取得がその後の就職状況に影響することから、就職活動に積極的でない学生が一部存在するため就職率への影響が懸念される。

【 今後の改善方策 】

- ・中途退学は学習意欲の低下による成績不良によって発生しやすいため、引き続き学習指導計画の見直しや指導方法の検討を行う必要がある。またインターシップ等の学習意欲が高まるようなイベントの企画を検討する。
- ・就職率の向上のため、職場見学やインターシップの励行、企業説明会を行い、就職活動への理解、円滑な就職活動のサポートを実践する。
- ・担任による個人面談によって学校生活上の悩みや不安を早期に把握する。
- ・校友会との連携や、SNS等のツールを利用して、これまで以上に卒業生との交流の場を増やすことを検討する。

【 特記事項 】

- ・3年次に就職支援のためのセミナーや企業説明会を開催している。
- ・学習支援として、放課後の勉強会や国家試験対策講座の実施、課題の配布、個別指導等を行っている。
- ・クラス担任との2者面談を年に数回実施している。
- ・JATI 対策講座を開催して資格取得の支援を図った。(今年度は20名中17名が認定試験に合格)
- ・卒業生向けの公式 LINE アカウントを開設し、試験運用を開始している。

5. 学生支援

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
進路や就職に関する支援体制は整備されているか	4	
学生相談に関する体制は整備されているか	3	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	
学生の生活環境への支援は行われているか	3	
保護者と適切に連携しているか	4	
卒業生への支援体制はあるか	3	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	
高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取組が行われているか	3	

【 課題 】

- ・在校生に於いては、生活環境面(学習、就職支援、学費納付等以外)の相談窓口が設置されておらず、また、それに対応する専門的な人材がない。
- ・進路や就職に関しては就職課が対応しており、卒業生の転職相談にも対応できるよう幅広い求人情報を収集する必要がある。

【 今後の改善方策 】

- ・卒業生支援の一環として、就職支援のために企業説明会の日程告知や株式会社健生及び治療家ネットワークとの連携による企業の紹介・斡旋を実施し、国家試験を再チャレンジする人に向けて国家試験対策の案内や国家試験に関する情報を開示する。

【 特記事項 】

- ・昨今の経済状況を考慮し、必要に応じて授業料納付に関する相談を受けている。
- ・年1回の学生健康診断の実施と新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症予防の啓発ならびに手指消毒液を昇降口や各教室入口に設置、サーマルカメラによる検温を行っている。
- ・就職支援では年1回の就職ガイダンス・企業説明会を行っており、また職員室前のロビーに企業様から頂いた求人票を常に見閲でき履歴書添削の個別指導を行っている。
- ・国家試験不合格者に対しては聴講生制度や国家試験対策セミナーへの参加、教員アドバイスのもと学習計画の設定などを行っている。また自習室の開放も行っている。
- ・日本学生支援機構からの支援金を積極的に活用した。

6. 教育環境

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
施設や設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4	
学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	
防災に対する整備はされているか	4	

【 課題 】

- ・臨床実習施設における職業教育の充実のために、積極的な広報活動や協力企業の募集に力を入れる必要がある。
- ・スポーツトレーナーに関連したインターンシップ、セミナー等の拡充に力を入れる必要がある。

【 今後の改善方策 】

- ・実習施設の利用者数を増やすために、SNSの活用、広告等による広報活動を行う。
- ・外部臨床実習施設を増やすために指導者講習会の開催を検討する。

【 特記事項 】

- ・プロスポーツ研修、ゲレンデ接骨院臨床見学実習などのインターンシップ、各セミナー(P.5参照)を実施した。
- ・高校柔道競技の大会に救護派遣を行った。
- ・少年野球合宿にトレーナー派遣を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行から一部のインターンシップ、セミナーが中止となった。

7. 学生の受け入れ募集

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
学生募集活動は適正に行われているか		3
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか		3
学納金は妥当なものとなっているか		4

【課題】

- ・入学後のミスマッチが若干見受けられた。
- ・高校1、2年生への広報活動が若干弱まった

【今後の改善方策】

- ・入学後のミスマッチを防ぐため、体験入学会やガイダンスにおいて職種や就職、資格や難易度などの説明に加え、勉学の重要性をさらに明確に伝える。
- ・勉学への意欲低下防止と更なる向上を図るため、様々な実践現場での研修機会を設ける。これにより将来性をイメージしやすくし、自分自身の未来像をより明確化させ、学習意欲向上へ繋げる。
- ・早期からの積極的なガイダンス参加により、学生との直接接触する機会を増やす。あわせてSNS等による学生生活、イベント告知、メッセージ等の配信を実施し認知度向上を図る。

【特記事項】

- ・学費については物価高騰および生徒募集の広告費拡大により見直しを行っている。

8. 財務

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか		3
予算や収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		4
財務について会計監査が適正に行われているか		4
財務情報公開の体制整備はできているか		4

【課題】

- ・経営基盤は安定の域にあるものの、2023年度事業にむけて計画的に準備を進める。
- ・実践研究科の生徒募集活動。魅力あるプランの設定。
- ・時代に沿った学生募集・園児募集。

【 今後の改善方策 】

- ・機器備品等の安全点検。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生徒への支援継続。
- ・令和6年に向けて納入金見直しと準備。

【 特記事項 】

- ・毎年5月に監事や公認会計士による会計監査を行っている。
- ・毎年5月に私学・公益法人課 学事班の学校基本調査を受けている。
- ・受配者指定寄付金を企業より受け、広報活動、修繕工事に使用した。
- ・企業主導型保育園(ダヴィンチ英智保育園)
 - 5月「児童育成協会」企業主導型保育施設に対する立ち入り調査。
 - 9月「児童育成協会」企業主導型保育施設に対する立ち入り調査。(労務監査)
 - 10月「仙台市」認可外保育施設立ち入り調査。

9. 法令等の遵守

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	
個人情報に関し、その保護のために対策が取られているか	3	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	
自己評価結果を公開しているか	4	

【 課題 】

- ・法令等適切に遵守し、運営を行っている。
- ・IT化が進むなか、情報漏洩の管理対策をより厳重にする。

【 今後の改善方策 】

- ・継続して自己点検、自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいく。

【 特記事項 】

- ・評価項目において「やや不適切」「不適切」の評価意見があった場合は、問題点を明確にした上で、その改善を図る。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		3
学生のボランティア活動を奨励し、支援しているか		3
地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託を積極的に実施しているか		3

【 課題 】

- ・地域へ開かれた学校として積極的に情報公開、施設貸出しなどを実施する。
- ・ボランティア活動に参加する学生を増やすため、推奨活動の継続が必要である。

【 今後の改善方策 】

- ・学生に対する各施設や団体等からのボランティア協力依頼を積極的に受入れ、掲示等で周知・奨励を図る。
- ・新型コロナウイルス感染症が心配されるため、既存の形式にとらわれず地域貢献の活動を行う。

【 特記事項 】

- ・附属施術所(はり・きゅう・柔道整復)にて一般外来患者を受け入れている。(令和4年度はコロナウイルス感染症の影響により休止中)
- ・派遣依頼を受けて各種スポーツ大会への救護係の派遣を行っている。
- ・校内に AED を設置し、日本救急医療財団 全国 AED マップへ登録しており、医療系教育機関として地域住民の安全を支援している。